

よくこれを克服し十四年の歳月と総事業費二十一億七千万円の巨費を投じて農水路を含む総面積四百九十九ヘクタールの長方整形の美田を完成し安定した農業経営により地域社会の発展に寄与することを誓うものである。

ここに事業の竣工を記念して碑を建て永く後世に伝えるものである。

昭和五十九年三月吉日 勝山北部土地改良区

旧野向村地区集落 竜谷 竹林 聖丸 深谷 牛ヶ谷 薬師神谷

北野津又

旧荒土村地区集落 布市 清水島 田名部 北新在家 松田 新保

伊波 北宮地 別所 細野口 境 西ヶ原

戸倉 新道

文章は碑文通りの配列になっていない。

昭和五十九年…一九八四年。

G-12 完成記念之碑



勝山市新保土地区画整理組合事業

完成記念之碑

参議院議員山内一郎書

碑文

当新保土地区画整理組合事

業の区域は新保区、松ヶ崎区、滝波区、田名部区地籍の一部で約四十ヘクタールの範囲に及んでいる。又市街地から二軒の北に位置し、古来より滝波川の豊富な流れを引水して農業を営み、生活をなしてきた土地柄である。

近年日本経済の発展と、社会情勢の変化と共に隣接地区の区画整理事業や東縦貫線の開通など、当地区周辺にも工場、住宅の激増の波が押し寄せて来ており、不良市街地の兆しが見られ市街地の再編が重要な課題となつて来た。

当時この地区は、不整形な土地に狭小な市道が存在するのみで生産、生活道路、公園等の生活環境施設が未整備であることから、将来の発展と潤いのある生活環境づくりを目指し区画整備事業の必要性の話し合いが進められた。合意に至るまでには長い歳月を要したが幾人もの推進者の努力に依り、権利者九十三名の同意を得、国県市各当局の指導のもとに昭和五十五年十二月に新保土地区画整理組合が設立された。爾来組合員の深い理解と、関係当局の絶大な援助を得て、都市計画街路を始め水路や公園の整備、建物及び墓地等の移転が昭和五十六年着工以来約八ヶ年の歳月と総事業費十五億八千万円有るの巨額を投じて完成した。

この土地区画整理事業は、想像以上の大改革であり、幾多の困難を伴った事業であったが、区域内の様相は一変し生活環境も整備され、ここに事業の完成する喜びと、勝山市の区画整理事業に大きく寄与できたことは、組合員の英断とたゆまぬ努力によるものであり関係各位に深く感謝申し上げますと共にこれを記念し碑を建立して後世に伝えるものである。

昭和六十三年十月三十日

勝山市新保土地区画整理組合

G-14 竣工記念



竣工記念 勝山市長 今井三右衛門

(裏)

碑文

この幹線林道新道線は、地域の関係者一同がかねてより切望していた林道であります。

幸い、国、県、市、及び山内一郎氏の絶大な御支援のもとに、昭和52度より13年の歳月をかけ、総延長5434メートル、事業費3億6千万円余の巨費を投じ、第一期分が完成した次第であります。

茲にその喜びを永遠に語り継ぐため、完成を祝して記念碑を建立した次第であります。

なお、引続き第二期工事については、新道横倉線として施工し、国道416号線に接続する

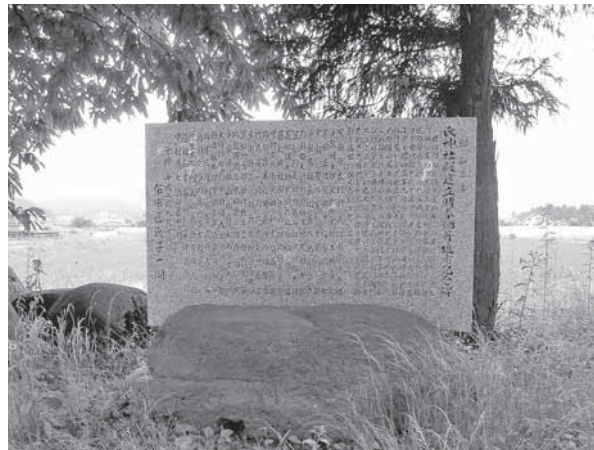
予定であります。
平成3年6月吉日 建立

大日林道愛護組合 組合長 水上 晟

関係区 新道、西ヶ原、境、細野口

戸倉、北宮地、伊波、松田
新保

G-15 氏神社殿建立時奉納寄進者記念碑



昭和三年

氏神社殿建立時奉納寄進者記念碑

世はつねに移り変わり、この区に住む人々もつねに変わってはきましたが敬神の念とこの区の発展を願った父祖の足跡は、今も新しく脈々と受け継がれて居ります ふりかえってみます

と、昭和三年九月当区鎮守の澤田神社の社殿造替がなされました。そしてその節氏子を始め、有縁の人々の多額の浄財が寄せられました。これ偏に当時の人々の敬神崇祖と子孫および村の繁栄を願った真心でありました。私たちは、ここにその先人の御遺徳の一端に應えるため、ささやかながら記念碑を建てその意を顕彰し後世に伝えたいと思います。

(二段)

黒田 熊吉	平泉源太郎	黒田 正満
黒田 豊	平泉 泰雄	内田市之丞
笠松 れん	高田鉄之助	藤松 時枝
中村吉兵衛	梅田 政太	竹内 茂一
多田 脩六	黒田六治郎	比良野酒店
平泉 源雄	大滝孫右エ門	丹後長太郎
坂下 三作	島田 たつ	竹生文右エ門
道林 和吉	中村 清七	

(二段)

北川 義治	矢戸宇太郎	黒田 了俊
三丁 仁吉	島田 善作	岡田初次郎
岡田藤市郎	黒田六之助	国本 直雄
黒田 和吉	牧野 義隆	北川 六蔵
伊田 嘉蔵	中村與三吉	黒田與三郎
山田 竹松	黒田博九之	黒田市兵衛
川端 金蔵	川端八百吉	島田 淳雄
布川 昇	島田藤右エ門	

(三段)

川端重太郎	土井 長松	布川 宇七
黒田 猛	島田 つき	黒田 由松
黒田 釦太郎	細田 進	岡田藤太郎
畠山 庄栄	道林 寅吉	矢戸 嘉三

村田喜之助 竹内 五市 原田 貢 内田吉右工門
 黒田秀太郎 多田 新一 竹内 利一 灯 籠
 寺田 武雄 平泉 澄雄

于時平成二歳九月七日

布市区氏子一同

昭和三年…一九二八年。

G-16 社殿建築紀念碑



社殿建築紀念碑

工学博士 仙石喜書

(裏)

昭和十二年九月奉納

寄附人 東京 石塚利助
 發起人 中清水 石塚四郎右衛門

昭和十二年…一九三七年。

G-17 遷座紀念碑



遷座紀念碑

(裏)

當宮舊社地者字宮東七番而狹隘且有不清塵煙之恐
 區民憂之久矣敷地反別三畝[三]步笠羽清左衛門同壺笠羽
 與右衛門從二氏被寄附焉於爰區民協議明治十六年穰
 奉移于現今之地今哉區民一致追想當時之奇特為紀念於以
 建築者矣

明治參拾九年九月 區民中

明治參拾九年…一九〇六年。

【解説】

塵煙を避けるため白山神社を遷座するに際し、二氏の土地寄附で現在地に移
 転したことを記念し建立された。



北袋勝山町並五十三ヶ村惣道場俱會精舍賢勝寺 (由緒(緒)沿革)

北袋山賢勝寺(やぶの寺)は、天正二年(西暦一五七四年)北袋一向一揆 楠正成の弟 楠兵衛正遠の長男 恵秀律師より始まり、代を重ねて十八代 岸本慈了に至る 文明三年七月に蓮如上人が吉崎を中心に北陸地方を五年間に亘り、他力念佛を伝道に努められた折、嶋田忠右衛門(北郷町上森川)が蓮如上人のお供をして、北袋(現勝山市)を御案内された。その功により上人が吉崎を立ち去られる時に、上人がいつも首にかけて伝道に努められて居た親鸞聖人の御影像を戴いた。この親鸞聖人の御影像を中心に、十六日講としてお講が立てられ以来毎年 北袋(勝山町並五十三ヶ村)をこの御影像のお供をして春と秋の二回廻在し お同行衆とともに、蓮如上人の御徳を偲び歓喜の念を新たにしている所謂である。

現在は時代に応じて一年一回として廻在している 慶長十年西本願寺十一

代門主 顕如上人より先祖の功により 北袋俱會精舍を拜命し、嘉永三年二十代門主廣如上人より北袋俱會精舍の御真筆額を賜った。こうした歴史を重ねて来たが、明治のはじめ頃より財政窮乏により、明治二十九年に荒土町別所地籍に移住した。当時の十四代目には 一男があつたが、性行おさまらず怠惰の末、父母の死後 北海道に放浪したと記されている。そしてこれが復興の為、明治三十一年に岡横江、岸本家より 岸本賢了を迎えられた。当時後継者が居た場合、養子に入っても籍が入らない為、嶋田を名乗ることが出来なかつたので 岸本のまま入籍し現在も住職は岸本を名乗っている。昭和二十一年(西暦一九四六年)に本派本願寺賢勝寺の寺号をいただき現在に至る

歴代

一代 恵秀律師(楠正遠長男)	七代 正通	十三代 重房
二代 嶋田正直(恵秀律師の孫)	八代 正次	十四代 吉康
三代 正房 (嶋田将監)	九代 正利	十五代 吉廣
四代 正良	十代 正貞	十六代 岸本賢了
五代 正重	十一代 正明	十七代 賢了祐
六代 正吉	十二代 正継	十八代 慈了

(裏)

寄贈 京都市山科区木知辻平田町

今西幸子

平成十年五月二十一日 北袋 山賢勝寺住職 岸本慈了

G-19 俱會精舎



俱會精舎

G-20 植樹記念



植樹記念

(裏)

檜 樅

榊 桜

百日紅 ヒマラヤ杉

(側面)

昭和五十九年九月二十二日

妙金島区

昭和五十九年…一九八四年。

G-21 記念樹



記念樹

G-22 (記念植樹)



浄土真宗
本願寺派
第二十四代門主記念植樹

樹名 したれ紅梅

平成十四年五月九日

G-23 (創立二十周年記念植樹)



上野保育園

創立二十周年記念植樹

(裏)

平成六年度卒園児一同

木名 金木犀 きんもくせい

平成六年八月

G-24 御即位御大禮記念碑



御即位御大禮記念碑

(裏)

大正四年九月建之

荒土村青年会松田支部

(そばに記念樹)

大正四年…一九一五年。

G-25 大典記念碑



大典記念碑

(裏)

大正四年九月

別所青年団支部

大正四年…一九一五年。

G-26 親鸞聖人尊像



親鸞聖人尊像

昭和四十四年十一月吉日

寄進人 八尾市老原西町

弓削町

大橋末吉
小枝元松

しんらんさま

(裏)

平成十年五月二十一日

(右に親鸞像)

G-27 (れんによさま碑)



れんによさま

(裏)

平成十年九月四日

金沢市

木村

徹観
鈴枝

(右に蓮如像)

G-28 夜泣き地蔵(由緒)



夜泣き地蔵(由緒)

荒土町中清水の旧庄屋石井家の墓地の一角に阿弥陀如来と並んで鎮座されていた。地蔵の後ろには「石井善之丞二十五才」と刻まれ阿弥陀如来像には「釈尼教全 明治元年拾月二十七日」と刻まれている。この方はどう云う方なのか施主は誰なのかも不明である。以来地元民の信仰を集め子供が生まれるとすこやかな成長を願ってお詣りされてきた。風の便りには福井方面からも来られたと云う。

お詣りすることでお子供の夜泣きがおさまったと云うことから子泣き地蔵が夜泣き地蔵と呼ばれ

る様になったらしい。この度石井家の墓の移動に伴い子孫の東京都在住石井友子氏の希望により賢勝寺境内にお移しされた。

(側面)

平成二十二年五月二日

(参考)

地蔵

釈尼教全 明治元辰十月廿七日

明治元辰年：一八六八年。

表12 北郷地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
H	1	(松田義直墓)	人物	森川
H	2	筆塚	人物	北郷小学校敷地
H	3	木下吉郎右衛門墓	人物	坂東嶋
H	4	贈正四位畑公碑	人物	伊知地
H	5	畑將軍戦死之地	人物	伊知地鷲ヶ岳山頂
H	6	忠霊塔	忠魂	東野
H	7	忠魂碑	忠魂	東野蓮照寺境内
H	8	竣工記念碑	一般	上森川
H	9	架橋記念碑	一般	小舟渡駅
H	10	坂東島鑛山跡	一般	坂東島 酒屋
H	11	新志倶楽部	一般	伊知地白山神社境内
H	12	(参道寄進碑)	一般	坂東島坂東神社境内
H	13	(神社用地寄進者碑)	一般	坂東島坂東神社境内
H	14	参道改修記念碑	一般	岩屋
H	15	(伊地知姓発祥の地碑)	一般	伊地知
H	16	(白山神社山王大権現灯籠)	一般	伊知地白山神社境内
H	17	(下萌句会碑)	一般	郷公民館敷地
H	18	(泰澄大師千三百年記念碑)	一般	岩屋
H	19	(上田三平氏調査記念碑)	一般	岩屋
H	20	再建記念之碑	一般	岩屋
H	21	御大典記念碑	一般	東野大鋌神社境内
H	22	御大典記念	一般	東野大鋌神社境内
H	23	御大典記念	一般	伊知地白山神社境内
H	24	御大典記念碑	一般	坂東島坂東神社境内
H	25	大東亜戦争必勝祈願	一般	東野大鋌神社境内
H	26	明治三十七八年戦役記念	一般	東野大鋌神社境内
H	27	(入営記念碑1)	一般	坂東島坂東神社境内
H	28	(入営記念碑2)	一般	坂東島坂東神社境内
H	29	(青年会退会記念碑)	一般	坂東島坂東神社境内
H	30	蓮如上人虎尾尊號	一般	森川南道場
H	31	蓮如上人御腰掛石	一般	東野蓮照寺境内
H	32	蓮如上人立像	一般	東野蓮照寺境内
H	33	蓮如上人藤懸之名號御舊跡	一般	伊地知仲谷道場
H	34	畑時能公殉節之地	一般	伊地知
H	35	畑時能之像	一般	岩屋
H	36	完成記念碑	一般	岩屋
H	37	旧跡 小舟渡渡	文化財	下森川
H	38	史跡 畑ヶ塚	文化財	伊地知
H	39	北袋銀山(新町銀山)跡	エコ町	新町
H	40	小舟渡	エコ町	森川
H	41	蓮照寺	エコ町	東野
H	42	伊知地下道場 蓮如清水藤掛名号	エコ町	伊地知
H	43	畑ヶ塚(伊知地古戦場)	エコ町	伊地知
H	44	鷲ヶ岳(鷲ヶ岳城跡)	エコ町	伊地知
H	45	坂東島鉾山跡	エコ町	坂東島

8 節 北郷地区

地区内には人物碑5、忠魂碑2、一般碑29の計36基の石碑が建てられている(表12参照)。人物碑として松田義直・高原邁の2基の筆塚が、同じく畑時能の碑も2基見られる。東野蓮照寺境内の忠魂碑は明治三十八年(一九〇五)の建立で市内ではもっとも古い。

碑は伊知地・東野・坂東島・岩屋区に集中して見られ、伊知地には畑氏にかかわる碑が、東野大鋌神社境内には御大典・戦役にかかわる碑が多い。坂東島の坂東神社境内の入営記念碑・青年会退会記念碑は、第2次大戦出征にかかわるもので非常に珍しいものである。岩屋には泰澄に関連する碑が多く建てられている。同区の林道沿いの道路改修にかかわる碑は、市内でもつとも高所に建つ碑である。エコ・文化財関係の碑は9基である。

H-1 (松田義直墓)



寛政元己酉年二月八日往生

釋常音居士

俗名 藍原左中潜保先生 松田義直

(側面)

諸門弟中

寛政元己酉年…一七八九年。

H-2 筆塚



筆塚

(裏)

勝山士族

教 高原邁氏之碑 學區内有志生徒中

師 明治十四年辛巳 十一月十四日没

(右側)

〔施人〕

(左側)

明治十五季壬午六月 建之

〔志比界村〕

石工 清水長右工門

明治十四年辛巳…一八八一年。

H-3 木下吉郎右衛門墓



木下吉郎右衛門墓

(裏)

舊此通路頗嶮行人為難伊知地外四村財出開鑿之偶工事中為崖石所摧壓而死

明治二十有一年三月十三日也

行年二十三才 有志者建之

(側面)

建地寄附三尺四尺 竹嶋文左工門

文章は碑文通りの配列になっていない。

舊…きゅう。旧。嶮…けん。けわしい。開鑿…かいさく。山野の地層を切り開いて道路を通ずること。偶…たま。摧…くだける。壓…おしつぶす。明治二十有一年…一八八八年。

【解説】

天爵大神こと水谷忠厚は車道を通すため、坂東嶗崎と呼ばれた坂東島と、栃原との間の改修工事を行った。その際落石のため命を落としたのが木下吉郎右衛門である。

H-4 贈正四位畑公碑



贈正四位畑公碑

從三位勲三等侯爵松平康昌題額

南越ノ北隅ニ伊知地村アリ後ニ鷲嶽ノ峻險ヲ負ヒ前ハ九頭龍ノ激流ニ臨ム村ノ郊外ニ古墳アリ傳ヘテ畑公ノ墳塋トナス公名ハ時能元弘建武ノ際新田左中将ニ從ツテ賊ヲ討チ勇名四方ニ聞ユ左中将戰没ノ後賊勢猖獗ヲ極ムト雖モ毫モ屈セス寡兵ヲ以テ敵城ヲ抜ク十有餘賊軍ヲ悩マスコト數年興國二年冬十月遂ニ此地ニ戰死シ是ヨリ北國復官軍ナシ今茲其ノ歿後六百年ニ丁リ有志相謀リテ古墳ヲ修メ祭典ヲ舉ケントシテ碑文ヲ予ニ求ム予モ亦少年常ニ此山ヲ仰キ天兵雪ヲ冒シテ奮戰スル壯觀ヲ想ヒ感激已マサリシ者誼辭スル能ハス思フニ今日戰雲洋ノ東西ヲ蓋ヒ砲聲未タ止マス是時ニ當リ前古忠烈ノ士ヲ祭ルハ是レ奉公ノ至誠ヲ伸ヘ義烈ノ精神ヲ旺ナラシムル所以ナリ因テ之レカ歌ヲ作りテ曰ク

そのかみのいくさ思へは鷲嶽山鳴りとよむ心地こそすれ

鷲嶽吹く木枯に靡かせし大義の旗を今仰き見よ

昭和十六年歲次辛巳秋八月

東京帝國大學教授正五位勲四等文學博士 平泉 澄 撰
東京商科大學講師 西脇 靜 書

(裏)

昭和十六年秋建立

東京市本所區

寄贈

鈴木千代松
妻 としを

【解説】

碑は昭和十六年（一九四一）、太平洋戦争開始直前の戦火が激しさを増す時期、畑時能没六百年を記念し建設された。文は平泉澄、書は西脇静の手になる。

H-5 畑將軍戦死之地



畑將軍戦死之地

陸軍中将渡邊満太郎書

(裏)

大日本史傳賛曰時能驍勇拳捷絶類離群新田氏之傾覆保據孤城

H-7 忠魂碑



忠魂碑

(裏)

維時明治三十七年二月十日露国ト宣戰大詔
 煥發セラルヤ我郷ノ忠勇親愛ナル軍人諸士ハ
 各其赤誠ヲ振ヒ奮然蹴起シ満州ニ渡リ
 險路嶂嶮ノ艱難ヲ嘗メ遂ニ難攻不拔ノ
 旅順口ヲ陥落シ更ニ鞭ヲ上ゲテ奉天ヲ蹂
 躪セリ嗚呼不幸ニシテ諸士皆此ノ役ニ
 斃ル今ヤ平和已復ニ當リ有志者ノ協
 賛ヲ得赫々タル威靈勲功ヲ永ク後
 世ニ傳ヘント因テ茲ニ碑ヲ建ツ
 明治三十八年十一月

以寡摧衆殆萬人敵也時能畑氏武州人建武初義貞兄弟唱義從而
 力戰及兄歿弟奔唯率廿七士據鷲巢城奮鬪敵將畑將軍披靡時能
 窺出奇身簡十六騎夜登伊知山敵來攻鏖戰走之而傷死蓋興國元
 年十月廿五日也自是北陸復興官軍兵大正四年
 聖皇際即位大典特贈正四位追賞其誠忠謂伊知山即此鷲岳也岳
 麓青年欽之建碑永遠標其地云尔
 高嶋 正 撰并書
 大正八年五月 北郷村 青年會建之
 浄法寺村

【解説】

「畑將軍戰死之地」とあり鷲ヶ岳山頂に北郷村・浄法寺村青年会により、大正
 八年（一九一九）に建てられた。時能が戦死に至る経緯と大正四年に正四位に
 追賞されたことを記念し碑を建てることが記されている。

H-6 忠霊塔



忠霊塔

(裏)

昭和三十五年十一月建立
 昭和三十五年…一九六〇年。

歩兵伍長	谷崎善一
同上等兵	田中重作
同	小林源松
同	笠川由助
同	竹生庄吉
第九師	前田甚助
同	大橋長左衛門
同	野田口岩松
同	山岸長左
同	笠松澳兵衛
工兵一等卒	小林増蔵
建設委員長	石川石松
建設委員	乾藤治
同	笠松清左衛門
同	石川安次郎
同	稲垣新右衛門
同	津田彦左衛門
同	笠松平左衛門
同	不動堂平左衛門
同	近藤小左衛門
同	嶋田茂右衛門

維…これ。明治三十七年…一九〇四年。煥発…か
んぱつ。詔勅を下す。赤誠…せきせい。まごころ。
奮然…ふんぜん。ふるいたつさま。蹴起…けつき。
決然と行動を起こすこと。磅礴…きく。屈曲した
山道。艱難…かんなん。なんぎ。嘗…なめ。味わう。
陥落…かんらく。城や都市が攻め落とされること。
鞭ヲ上ゲ…馬を速く走らせるためムチを振り上げ
る。蹂躪…じゅうりん。ふみにじる。斃…たおれ
る。倒れて死ぬ。赫々…かつかく。功名などの人
にすぐれていること。威霊…いれい。天子の威光。

H-8 竣工記念碑



勝山西部土地改良区 竣工記念碑
団体営圃場整備事業

福井県知事 中川平太夫

(裏)
昭和五十一年七月吉日

碑文

我々の祖先がこの地に村を定め農業を始めたのは
奈良時代以前のこと以来今日まで耄耋式
百余年にわたり開田、治水等、専ら農耕に励み
ひたすら共存共栄を念じ尽力してきた

しかし 時代の変遷と共に農業も生産性向上の
ため大きな転換を要請されるに至り 大型化生
産方式にみあう圃場の整備が急務となった そ
こで北郷町 西妙金島東野檜曾谷 新町 志比
原 森川 下森川 荒土町 堀名 中清水 妙
金島の各区が相計り 総意と協力のもとに組合
を設立し 昭和四拾七年六月 工事に着手した
総面積壹百参拾参ヘクタールを四年の歳月と五
億六阡参百余萬円にのぼる巨費を投じ この事
業を完工した この間幾多の困難な問題を克服
し 組合員多年の念願か(が)みのりこの偉業
が完成したことは誠に喜びに堪えない処である
よってここに碑を建て永遠に記念する

昭和五拾壹年七月吉日

勝山西部土地改良区

(裏)

理事長 乾 吉一
副理事 森石 慶孝

理事

石倉惣代治
笠塚 誓

小林 廣

嶋田 源吾

嶋田 英夫

田中 正保

立平 重平

津田彦左門

平井彦五郎

稲垣 貞文

嶋田 英博

監事

事務局長

福井県立土地改良連合会

設計業者

換地業者

福岡換地事務所

セキサン工業株式会社

資材納入者

北陸コンクリート株式会社

見谷コンクリート株式会社

丸高コンクリート株式会社

岩本建設

大北久保建設株式会社

株式会社武内組

西浦組

野沢組

株式会社松井建設

砂村土建

勝見建設工業株式会社

株式会社市岡組

組合員総数 式百拾八名

昭和五十一年…一九七六年。

現在に取りこわされている。

H-9 架橋記念碑



架橋記念碑

福井県知事福永尊介題

小舟渡ハ封建時代幕府直轄ノ渡船場ニシテ大野郡北部ノ咽喉福井勝山間ノ交通上重要ナル地点トシテ其名ヲ知ラレシモ僅ニ小舟ヲ以テ往来ノ便ヲ圖リシカ世ノ進運ト共ニ不便尠ナカラストシ明治十七年地方有志森川村笠松氏清水村赤井氏等相謀リテ船橋ヲ私設シ續テ同三十七年縣營ニ移リシモ一朝洪水ノ場合ハ切斷シテ交通ヲ杜絶スル事年々數回ニ及ヒ平時ト虽交通頻繁ニツレ人馬ノ墜落死傷少ナカラス之レカタメ地方發展ヲ阻害セラル、コト甚大ナリ依テ地方有

志之ヲ憂同三十九年頃ヨリ屢々架橋方ヲ嘆願スト虽其運ヒニ至ラサリシヲ當時縣會議員タリシ石川石松氏ハ之ヲ慨嘆シ日夜寢食ヲ忘レ時ノ川嶋知事ニ事情ヲ具申シ縣會ニ同意ヲ求メ幾多ノ辛苦ヲ經テ漸ク賛同ヲ得大正七年現今ノ鉄橋架設ノ工ヲ起サレ同十二年九月峻功ヲ見ルニ至レリ其間同氏ノ盡力ノ効多ナリトス仍テ茲ニ其功勞ト沿革ヲ誌ス

大正十二年九月 建設

(左側面)

功勞者

石川石松殿

(右側面)

北郷村

咽喉…いんこう。重要な通路。尠…すくない。杜絶…とぜつ。途絶えること。頻繁…ひんぱん。しきりであること。屢々…しばしば。慨嘆…がいたん。うれいなげくこと。大正七年…一九一八年。明治十七年…一八八四年。

【解説】

福井と勝山を結ぶ渡し、小舟渡として小舟によりその往来がなされていた。しかし洪水による杜絶、舟の流失が絶えなかった。森川村の笠松氏らの尽力により架橋されたことを記念した碑である。

H-10 坂東島鑛山跡



坂東島鑛山跡

(裏)

笠松平左衛門建之

(側面)

西至丸岡四里 福井五里
東至勝山二里 大野五里

H-11 新志俱樂部



奉納 寄進

新志俱樂部

(側面)

昭和三十九年七月吉日

(裏)

(一段)

高野 正一 高野 義一 高田 弥一
田中 治一 田中 仁治 田中 一男

(二段)

田中 高大 田中 光治 辻 安夫
仲谷 伝吉 仲谷 勝 山口 成美

(三段)

山口 敏雄 山口 敏光 藤田 善秀
近藤平之助 近藤 一雄 近藤 孝男

(四段)

近藤 正術 近藤 忠夫 近藤 富

近藤 康男 近藤 斉 近藤 豊
(五段)

近藤 隆治 出口 徳市 近藤 勲
沢口 沢松 沢口 光男 湯屋奥陸丸
(六段)

清水 元春 清水 正文 清水 光男
島田 治美 木下三左工門

(側面)

(一段)

沢 末義 山下 義一 堂下 治
川村 藤孝

(二段)

笠羽 豊美 笠松 清 高野 新助
仲谷 静雲

(三段)

近藤 義栄 近藤 義則 近藤 一二三
近藤 栄治

(四段)

橋本 栄 方便 守 堂下 吉雄
表家 高栄

(五段)

岡崎 久雄 岡本 教満 笠松 秀広
笠松新右工門

(六段)

笠松 栄一 川村 和夫 勝見 進
木下千恵造

昭和三十九年…一九六四年。

H-12
(参道寄進碑)



坂東島総合開発
寄進 参道一式
福井市 土井 忍

H-13
(神社用地寄進者碑)



神社
用地
寄進者

竹島文左工門
笠松平左工門
笠羽清右衛門
笠松 治 孝

H-14
参道改修記念碑



参道改修記念碑
(裏)

岩屋観世音奉賛会

工事 大野市 嵐谷造園

参道左側工事志納

坂東島 横井建設

境内工事 福井市藤島

土建 上中幸固

昭和五十九年八月吉日建立

昭和五十九年…一九八四年。

H-15 (伊地知姓発祥の地碑)



薩摩島津藩 伊地知姓発祥の地
(裏)
平成十七年 勝山市長 山岸正裕 筆
(側面)

贈 近藤栄治

H-16 (白山神社山王大権現灯籠)



奉 納 山王大権現
(側面) 文久四甲子
(側面) 惣若連中

文久四甲子…一八六四年。

H-17 (下萌句会碑)



九頭竜龍の
月の涼しと
連れ立ちて

牧羊

(裏)

花鳥 藍同人

観世音菩薩の水として澄みし
この心さとられまじく夕端居
窓を打つ木の葉時雨や風土記読む
空澄むで川澄むで句碑伝ふ寺
天高し岩に根を張る神の木々
夏雲は鬼の栖家か十重二十重

高野あらた
近藤えいじ
平井 糸女
小林 一滴
笠川喜代子
笠羽よしを

春先に満ち満ちてゐる大地かな 木下てる子
 常寂と観音端座下萌ゆる 藤永 汎露
 行く人にかかわりのなき野菊かな 笠川 野宵
 落葉掃く夫の日課のはじまりぬ 小林 光子
 花蓮に父母の面影ありにけり 福田富美子

句碑の由来

昭和二十七年 当時北郷公民館主事であつた
 高野あらた氏がホトトギス同人荒川あつし
 小林牧羊両先生 村立岩屋分校在職中の齊川
 似船先生 島田柳蛙 島田とし 平井糸女氏
 や近藤えいじ 小林一滴氏等に呼掛け「若鮎
 句会」を作つた

一時途切れはしたものの昭和五四年 三崎
 浄仙公民館長が中心となつて「北郷公民館下
 萌句会」として再発足し諸先輩の情熱と努
 力で今年も「下萌二二号」を出すまでに至つた
 いま牧羊先生を始め会員の高齢化 少人数化
 の中で是非ともこの事蹟を後世に残すべく
 また将来の発展を祈念してここに師弟の句碑
 を建立した

平成十四年十一月吉日

えいじ外十名

施工社 (有) 植石

栖…棲。せい。住む。常寂…じょうじゃく。仏の
 常に住むところ。昭和二十七年…一九五二年。

H-18 (泰澄大師千三百年記念碑)



奉 泰澄大師 岩屋観世音

(裏)

泰澄大師壹千参百年記念
 昭和四十八年八月 岩屋奉賛会

H-19 (上田三平氏調査記念碑)



泰澄
 開基 岩屋観世音

(裏)

主任上田三平氏調査記念
 発起人 岩屋青年會一同

(側面)

大正九年十一月三十日 文部技
 師中川忠順氏福井縣史蹟調査

大正九年…一九二〇年。

H-20 再建記念之碑



岩屋観世音

再建記念之碑

(裏)

牧 泉 謹書
 平成四年十月吉日建立

H-21 御大典記念碑



御大典記念碑

(裏)

大正四年十月建之

北郷村青年會

東野支部

大正四年…一九一五年。

H-22 御大典紀念



奉獻 御大典紀念

(裏)

青年會東野支會

昭和三年建設

昭和三年…一九二八年。

H-23 御大典記念



御大典記念

大阪在住者 鳥居寄進五十一名

発起人 清水伊蔵

近藤徳蔵

近藤淺吉

近藤愛吉

仲谷惣左衛門

世話人 木下惣之丞

清水與蔵

■ 万次郎

(側面)

鳥居幹施

伊知地青年會

伊知地区

建之

(側面)

寄進人 昭和四年九月吉日

(二段)

伊藤 秀吉 山口 音松 田中 すけ

近藤 正 松本政次郎 近藤 吉作

田中 盛義 木下 雛栄 澤口 蒸作

(二段)

■ 万大 澤口 沢栄 岩田ふい子

山口 多市 矢木 ■を 河村 馨

澤多 ま江 藪下志づを 権内 勇次

(三段)

福西 りま 井村おゆき 清水藤十郎

久保 嘉市 肥塚 せん 石田 みき

清水 茂作 辻 栄太郎 石川 やつ

(四段)

近藤 万吉 井上きく江 和田 ぎん

近藤 高松 小林きく江 笠松甚太郎

木戸 はま 田中 多み 有澤 み江

(五段)

横井 清七 清水 善七 清水善次郎

土井おみつ 高野與左エ門 東漸 景良

高野 強

昭和四年…一九二九年。

H-24 御大典記念碑



(裏)

御大典記念碑

大正四年十一月十日 建之

北郷青年會

坂東島支部

大正四年…一九一五年。

H-25 大東亜戦争必勝祈願



大 東 亜 戦 争

獻納

北郷村東野地籍

第六拾参字背山八番ノ壹

山林九反五畝拾歩

必勝祈願

昭和十七年四月二十一日

獻納者

大阪 田中與三松

同 田中已知雄

同 田中 秀一

同 田中 京吉

同 田中与三松 九條

同 田中 都

同 田中 清作

同 島田 勇作

(裏)

昭和十七年九月十五日

爲記念東野区建之

区長 石川喜左衛

昭和十七年：一九四二年。

H-26 明治三十七八年戦没記念

同	小森 正
同	田中 新松
同	石川 由松
同	田中 新松
発起人	田中 与三松



献燈 明治三十七八年戦没記念

陸軍歩兵軍曹勲七等功七級 田中喜多右門

陸軍歩兵上等兵勲八等功六級 田中 新松

献燈 明治三十七八年戦没記念

陸軍砲兵勲 田中 秀吉

発起者 田中 善助

明治三十七年：一九〇四年。

H-27 (入営記念碑1)



昭和十三年八月

入営 記念 笠川 正栄

昭和十三年：一九三八年。

H-28 (入営記念碑2)



昭和十三年八月

入営 記念

笠川 正栄

横井 昇一

川村 音吉

2基ある。

H-29 (青年会退会記念碑)



青年会退会記念

松村 健一
川上 ■

その横にもう1基

中山 新也

H-30 蓮如上人虎尾尊號



文明三年四月中旬

蓮如上人虎尾尊號 江端道場

文明三年…一四七一年。

H-31 蓮如上人御腰掛石



蓮如上人御腰掛石

H-32 蓮如上人立像



蓮如上人立像

寄進者

石川作次郎

石川 スエ

(裏)

昭和五十年八月吉日

施工者福井市

石丸石材

昭和五十年…一九七五年。

H-33 蓮如上人藤懸之御名號御舊跡



蓮如上人藤懸之御名號御舊跡

(側面)

正信偈御文外跡 ■

御本尊蓮如上人御自図

御膳水泉水并御腰掛石

H-34 畑時能公殉節之地



畑時能公殉節之地

海軍大将有馬良橘敬書

(参考)

史跡畑ヶ塚

昭和拾九年四月七日指定福井県

寄附 高井 清次

有馬良橘…和歌山県出身の軍人(一八六一〜一九四四)。海軍大將。

H-35 畑時能之像



畑時能之像
(側面)

三世を貫く宿明道
阿闍梨

山口春光

七十三才

昭和四十九年五月

吉日

靈言

縁有りて因有り

因有りて縁有り

岩屋地に

春光浴びて

世に出でし

我れ今双手を

(下段)

合せ喜ばん

御台建立発願特志者氏名

東野 小場 孫平

田中 敏丸

上志比 堀江かほる

福井 坂口義太郎

小場 澄雄

小松 大壁 ちゑ

大坂 大壁 音松

後 みす

新保 正勝

伊地知 高野 春三

東野 小場 絹子

小場 秀彦

小場 春隆

小場 強

石塚やすを

田中 忠

昭和四十九年…一九七四年。

H-36 完成記念碑



広域基幹林道岩屋線
完成記念碑

福井県知事 栗田幸雄

(裏)

この林道は、勝山市北郷町岩屋地係を起点とし、丸岡町上竹田地係に至る幅員四・〇メートル、総延長十二・七キロメートルの広域基幹林道である。

昭和五十五年度に着手して二十年の歳月と約十九億円余の巨費を投じ平成十一年度をもって完成した。

当路線の開通により既存の「河内南谷線」と

相俟って勝山市、丸岡町さらには石川県江沼郡山中町までの一体となった広域的な林業の生産基盤が整備され、豊富な森林資源の活用による山村地域の活性化が図られるとともに、この地域の森林が有する多面的、公益的機能の高度な発揮を期待するものである。

平成十一年十一月吉日

岩屋、河内、南谷線

広域基幹林道開設促進期成同盟会

会 長 今井三右衛門

副会長 林田 恒正

副会長 田中 實

昭和五十五年…一九八〇年。俟…まつ。

表13 鹿谷地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
I	1	山内淡月頌徳碑	人物	荒鹿橋西詰
I	2	(超道墓)	人物	発坂
I	3	記念碑	人物	西光寺
I	4	殉國之碑	忠魂	発坂
I	5	忠魂碑	忠魂	本郷
I	6	(萬霊供養塔)	忠魂	本郷
I	7	忠魂碑	忠魂	東遅羽口
I	8	嗚呼殉道之碑	忠魂	矢戸口水谷神社境内
I	9	道路改修記念碑	一般	杉俣
I	10	用水記念碑	一般	本郷
I	11	鹿溪小学校跡	一般	本郷
I	12	甲淵小学校跡	一般	保田
I	13	大門跡	一般	発坂
I	14	記念碑	一般	保田
I	15	道標 (芦見道)	一般	北西俣 1
I	16	道標 (芦見道)	一般	北西俣 2
I	17	保田時計台	一般	保田
I	18	蓮如上人御旧跡所	一般	保田
I	19	公德碑	一般	東遅羽口白山神社境内
I	20	常夜燈	一般	矢戸口
I	21	(志田八幡社灯籠)	一般	志田八幡社境内
I	22	(杉俣八幡社灯籠)	一般	杉俣八幡社境内
I	23	御大典記念	一般	北西又白山神社境内
I	24	皇紀二千六百年記念	一般	矢戸口水谷神社境内
I	25	蓮如上人御旧跡	一般	保田
I	26	弘法大師御休跡地	一般	保田
I	27	俱会一處	一般	保田
I	28	(若連中寄進碑)	一般	志田八幡社境内
I	29	勝山市指定文化財 西光寺の大杉	文化財	西光寺
I	30	淡月道	エコ町	発坂
I	31	保田下道場 蓮如上人硯水の池	エコ町	保田
I	32	保田城跡 (西光寺)	エコ町	保田
I	33	矢戸坂	エコ町	矢戸口
I	34	蓬生坂	エコ町	東遅羽口

9 節 鹿谷地区

地区内には人物碑3、忠魂碑5、一般碑20の計28基の碑が建てられている(表13参照)。他地区に比べ忠魂碑の占める割合が高い。一般碑で特徴的なものとしては、矢戸口水谷神社境内の皇紀二千六百年記念の碑、北西俣の「芦見道」の2基の道標があげられる。鹿溪・甲淵の2つの小学校の歴史を記す碑が、それぞれ本郷と保田の道路脇に建てられている。志田の八幡社境内に建つ「八幡神社」の碑には「若連中寄進」の文字が記されている。「若連中」の文字が見られる碑は市内では珍しい。文化財およびエコ関係の碑は6基である。



山内淡月頌徳碑

福井県知事 羽根盛一書

(別碑)

山内淡月氏ハ安政元年四月八日大野市御給専信寺住職関賢祐氏ノ四男トシテ生レ幼名ヲ賢哲ト称ス 後鹿谷町保田山内か祢ノ養嗣トナリ淡月ト改名ス質性剛胆眼中尊貴ナク平素寡黙ナレドモ口ヲ開ケバ音吐洪鐘ノ如クソノ炯眼ト相俟チテ接スル者自ラ畏服ス嘗ツテ郡内ノ連合戸長ニ官選セラレ次イデ郡縣會議員ニ舉ゲラルソノ偉業ハ永ク所謂淡月道ノ名ニヨリテ喧傳セラル淡月道トハ通称丸岡道路ト云ヒ丸岡町ヨリ小舟渡ニ至リ九頭龍川ノ左岸ニ沿ヒ鹿谷遅羽ヲ経テ大野市ニ通ズルモノニシテコノ道路開サク以前ハ東ニ赤岩ノ峻険アリ西ニ九頭龍ノ断崖アリ車馬ノ往来ハ勿論時ニ交通杜絶ノ慘アリ住民ノ難渋想像ニ絶スルモノアリ氏ハ深ク之ヲ慨キ苦心慘澹幾度モ県会ノ賛同ヲ求メ百折不撓遂ニ明治二十三年県費ヲ以テ赤岩隧道ヲ開サクシ二年ヲ経テ漸ク竣工ニ十六年藤巻下荒井間全線改修ノ偉業完成ス後年京福電鉄ノ鹿谷遅羽地籍ニ敷設サレシハ実ニ本道路開サクノ賜ニシテソノ功績ヤ洵ニ大ナリト謂フベシ氏ハ又教育産業ニツキテモ宏遠ナル抱負ト卓越セル識見ヲ懷キシモ惜シイ哉明治二十六年十一月二十六日三十九才ヲ一期トシテ病没セリ爾来六十有餘年氏ノ偉業ヲ偲ヒ遺徳ヲ慕ヒ永クソノ功績ヲ子孫ニ傳フルタメ有志相詢リ頌徳ノ碑ヲ建ツル所以ナリ

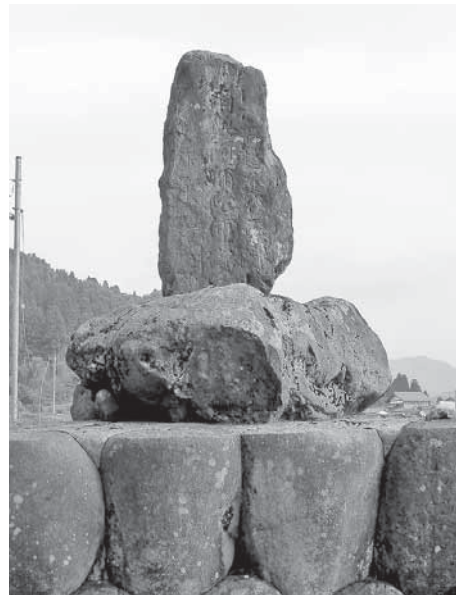
昭和三十三年十二月三十日

昭和三十三年…一九五八年。安政元年…一八五四年。明治二十三年…一八九〇年。

【解説】

山内淡月は安政元年（一八五四）大野市御給専福寺の四男として生まれ、後に保田村の山内かねの養子となった。鹿谷と遅羽村を結ぶいわゆる淡月道を開鑿したことで知られる。碑には道路開鑿に至る苦難の歴史と淡月の功績が記されている。羽根盛一は福井県出身。公選第2代知事で在職は一九五五～五九年。

1-2 (釈超道墓)



明治三十三年

九月廿五日

釈超道

南無阿弥陀仏

行年三十三年

慶応三年

九月廿八日

門弟中

(裏)

先祖代々之墓

明治三十三年…一九〇〇年。慶応三年…一八六七年。

【解説】

碑に門弟中とあることから「超道」は発坂村で幕末期に寺子屋の師匠をしていたものと思われる。

1-3 記念碑



記念碑

(裏)

南部亦左衛門

君十有五單身出於大坂黽勉努力藏財

作富今茲建公會堂而供區民發展其他

為鄉党多盡可謂寄特矣勒以彰其功業

大正甲子夏建之 西光寺區

【解説】

南部亦左衛門は西光寺村に生まれ一五歳で大阪に出て染物業を営み財をなした。故郷に公会堂（公民館）建設の貢献をなしたことを顕彰するため、大正十三年（一九二四）に碑が建てられた。



殉國之碑

芳秀院釋敬之	昭和十九年八月五日	嶋田	敬司	三十四才
專求院釋必成	昭和十九年九月十七日	嶋田	武	二十七才
釋暎芳	昭和十九年九月三十日	三枝	傳	二十四才
英昭院釋教治	昭和十九年十二月八日	嶋田	英治	二十二才
弘誓院釋清道	昭和十九年十二月十五日	斎藤	清	二十一才
端政院釋淳之	昭和二十年九月七日	嶋田	政之	二十四才
松寿院釋教巖	昭和二十一年一月十七日	嶋田	巖	二十才
釋教徳	昭和二十二年十一月十二日	嶋田	登	二十五才
釋浄暎院	昭和十九年十二月十九日	但馬	義隆	二十六才

昭和十九年：一九四四年。



忠魂碑 元帥伯爵 東郷平八郎

(裏) 大正十二年二月建之

碑文

116 (萬靈供養塔)



(裏)
南無觀世音菩薩十方世界萬靈供養塔

奉納 東大阪市東豊浦町在住

杉俣出身 七十一歳 山内利一

昭和四十四年九月

昭和四十四年…一九六九年。

117 忠魂碑



忠魂碑

戦没者芳名

陸軍上等兵

陸軍軍曹

陸軍伍長

陸軍上等兵

陸軍伍長

陸軍兵長

陸軍兵長

海軍飛行二等兵曹

陸軍兵長

陸軍伍長

石田 春

石田喜平治

宇佐美 悟

石田 金作

宇佐美吉栄

宇佐美末太郎

石田 実

竹内 勉

石田 港

宇佐美駒治

昭和

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

三年五月五日

十三年三月四日

十三年四月廿八日

十五年十月十七日

十九年五月卅日

十九年七月十日

十九年七月廿九日

十九年十月廿五日

十九年十二月九日

二十年四月一日

濟南

日支

〃

〃

大東亜

〃

〃

〃

〃

〃

海軍二等兵曹	石田 清榮	〃	二十年四月廿四日	〃
海軍徴用	宇佐美敏子	〃	二十年八月七日	〃
陸軍伍長	石田 旱	〃	二十年八月十三日	〃
満州開拓	石田 一男	〃	二十年八月十五日	〃

昭和四十九年四月建之
東遼羽口区

昭和三年…一九二八年。

118 嗚呼殉道之碑



嗚呼殉道之碑

文學博士平泉澄書

(裏)

昭和二十六年八月
石工 ホウキ前川 兼松

昭和二十六年…一九五一年。

119 道路改修記念碑



道路改修記念碑

福井県知事 斎藤直橘

当区出身大阪市山内栄吉君ハ
本道路費ヲ寄附セラレ其功
績甚大仍テ区民一同之ヲ
建テ其ノ名ヲ永遠ニ顕彰ス

昭和六年二月

昭和六年…一九三一年。

【解説】

道路改修記念碑とあるが、大坂に出てラシャ屋を經營し成功をおさめた山内栄吉が、道路建設費用を寄附したことを顕彰した碑である。

110 用水記念碑



用水記念碑

(側面)

明治三拾八年拾壹月

(裏)

當區常苦於水乏久矣時至
機熟爰見本用水疏通噫是
實萬代寶刻石遺于後世焉

偉功者 前川 吉藏

山内安兵工

主喝者 山内幾太郎

山内新左エ門

寄 附

奔走者 山内松三郎

山内文四郎

竹内治右エ門

藤堂孫右エ門

前川 円助

建碑惣代

本多 治平

順位不同

島田 脇藏

山内吉右エ門

松村 義一

木下 三作

山内 治助

尾廣嘉之助

前川牧右衛門

功勞者 藤堂橋治郎

清水吉之助

媒介者 光県坊五作

明治三拾八年…一九〇五年。疏通…さわりなくとおること。噫…ああ。

【解説】

碑には本郷区の用水開設に至る経緯と、それにかかわった人物名が連記されている。

111 鹿溪小学校跡



鹿溪小学校跡

(裏)

昭和六十年八月十五日建之

資金は旧校下各戸並びに旧校下の篤志家の拠出
敷地は地主黒瀬正則氏の協力による

表字は鹿谷小学校元訓導嶋田すゑを書
略史は鹿谷小学校沿革誌等による

略史

明治六年九月 現今の七箇村を学区に本郷村宝光寺にて授業開始
同九年四月 北西俣西光寺二村を学区に北西俣村に西俣小学校
杉俣東遅羽口遅羽口西本郷矢戸口の五村を学区に

矢戸口地籍に鹿溪小学校を設立

同十七年四月 連合村の制となり鹿谷村の称となるや

西俣小学校と合併し本郷に移転

同三十年十一月 俗称字門前堂の山麓を伐り平げて移転

同四十一年四月 新令により高等科を設置

同年十二月 本郷十字鍛冶屋後（当碑の筋向い）に移転

大正三年一月 鹿谷尋常高等小学校と改名

同年三月 保田甲淵小学校を廃止鹿谷小学校の分教場となる

同十二年三月 保田分教場を併合し 本郷三十四号一番地の

現在地に移転

明治六年…一八七三年。大正三年…一九一四年。昭和六十年…一九八五年。

112 甲淵小学校跡



甲淵小学校跡

（裏）

記

明治八年 甲淵小学校創立

明治十八年 学区を保田志田發坂一円とする

明治二十六年 甲淵尋常小学校と改称

大正三年 鹿谷尋常高等小学校と合併保田分教場となる

大正十二年三月 廃校

開校四十七年間学童一千名の修学場
表字は六年在職の伊藤やそ訓導の書

明治八年…一八七五年。大正三年…一九一四年。



大門跡



新しいまちづくり
保田工業団地造成事業
記念碑

(裏)

保田工業団地
土地提供者名

大久保しづえ	牧野 清子
小山 稔	牧野 武義
玉木 利榮	安居 嘉博
前田 秋實	北山 一男
牧野 巖	山内 良純
牧野 学而	渡辺 七恵

平成六年十二月吉日建立

保田区

土地提供者一同



(手前)

右芦見道

(奥)

左芦見道

大正十三年十一月

大正十三年…一九二四年。

117 保田時計台



保田時計台 保田三十六字五十番地

柿ノ木町

(裏)

平成十八年五月吉日完成

平成十七年度区長 牧野元恵

平成十八年度区長 牧野久司

118 蓮如上人御旧跡所



蓮如上人御旧跡所

(裏)

是より五百米上る徒歩で十分

昭和五十六年三月吉日

寄進 松岡町 和田みきを

昭和五十六年…一九八一年。

119 公德碑



公德碑

— 20 —
常夜燈



常夜燈

明治十^六年^十月

明治十六年…一八八三年。

— 21 —
(志田八幡社献燈)



(献燈)

萬延申六月日

寄進

六十六部

萬延申…一八六〇年。

— 22 —
(杉俣八幡社灯籠)



(灯籠)

安永四乙未年五月吉日

安永四乙未年…一七七五年。

――23 御大典記念



(裏) 白山神社

御大典記念

昭和三年九月

(側面)

イロハ

石田宗市	石田由松	坂東藏栄
千葉豊吉	千葉興吉	大久保諦誠
河原清一	四方要市	四方幸市
松村勘市	松浦春栄	辻 留吉
光真坊真作	光真坊幸作	小林喜治郎
小林栄吉	小林亀吉	小林久栄
朝日 實	宮本三之丞	

昭和三年…一九二八年。

――24 皇紀二千六百年記念



献燈 奉納

佐野七太郎

(側面)

皇紀二千六百年記念

昭和十五年暮

皇紀二千六百年…一九四〇年。

――25 蓮如上人御旧跡



蓮如上人御旧跡

(裏)

文明五年蓮如上人御逗留硯水の池

昭和四十九年十二月吉日建之

文明五年…一四七三年。昭和四十九年…一九七四年。

— 26 弘法大師御休跡地



弘法大師御休跡地

(裏)

大正十三年三月建之

大正十三年…一九二四年。

— 27 俱会一處



俱会一處

(裏)

明治三十二年以來六回に互る九頭
竜川の大洪水により水田を失ひ保
田区を離れて他に移られた家々の
霊を合せまつりこの碑を建之

昭和四十九年十一月保田区

明治三十二年…一八九九年。昭和四十九年…一九
七四年。

— 28 (若連中寄進碑)



村社八幡神社

(裏)

若連中

10節 遅羽地区

地区内には人物碑は見られない。忠魂碑が1、一般碑が11の計12基が建てられている（表14参照）。土地改良・建物跡にかかわる碑が多いのが特徴である。大袋（新道）の「大興紀年碑」は大正九年（一九二〇）の開墾碑で、土地改良にかかわる碑としては市内で最も古い。大袋の住吉神社境内に建つ碑は表面が判読できないが、明治三十七年（一九〇四）に発生した村の火災にかかわり建てられたものである。特異な碑としては下荒井の「箱ノ渡」の付近にある「線刻大日如来像」の碑がある。

エコ・文化財関係碑は9基あり、なかでも泰澄大師が渡ったとされる「箱ノ渡」など、市内を代表する3つの渡しの碑は市の指定文化財となっている。

表14 遅羽地区石碑一覧

記号	番号	名 称	分類	場 所
J	1	忠魂碑	忠魂	三室小学校付近
J	2	大興紀念碑	一般	新道
J	3	記念碑	一般	三室山入口春日神社境内
J	4	記念	一般	大袋
J	5	北山惣社址跡	一般	北山
J	6	旧遅羽村役場跡	一般	新道
J	7	遅羽保育所跡地	一般	新道
J	8	(蓬生白山神社灯笼)	一般	蓬生白山神社境内
J	9	(線刻大日如来像)	一般	下荒井
J	10	南无阿彌陀佛	一般	蓬坂登口
J	11	南无阿彌陀佛	一般	三室山入口春日神社境内
J	12	(不動尊(德)之碑)	一般	大袋住吉神社境内
J	13	旧跡 宮ノ渡	文化財	下荒井
J	14	旧跡 鷺ノ島渡	文化財	中島
J	15	旧跡 比島ノ渡	文化財	比島
J	16	旧京福電鉄下荒井トンネル	エコ町	下荒井
J	17	三室山城跡	エコ町	峰崎
J	18	蓬生坂	エコ町	蓬生
J	19	比島の渡	エコ町	比島
J	20	鷺嶋の渡	エコ町	比島
J	21	比島観音（入口）	エコ町	比島

J-1 忠魂碑



忠魂碑

(裏)

遅羽奉讃会

(別碑)

戦没者芳名

(裏)

遅羽遺族会

(二段)

日露戦没

田中 興作

斎藤七太郎

島田善次郎

伊藤 清作

支那事変

伊藤 主計

仲村 大吉

斎藤 昇

島田 裕

斎藤 七蔵

斎藤 一夫

斎藤七太郎

大東亜戦争

池田 清

伊藤 未治

伊藤 孝

伊藤 善作

伊藤由太郎

長谷川市太郎

西川 港

鳥山 芳雄

織田吉太郎

田中 治栄

斎藤 春恵

(二段)

滝本 正

仲長吉次郎

仲村 忠夫

桑原 喜衛

牧野 久

松山 利栄

松山善五郎

前川 正

松山 三作

牧野 章三

藤崎 三栄

小玉 捨三

小池 孫吉

小池 保

斎藤 敬三

酒井 佳隆

酒井 義一

酒井 護

酒井 長雄

酒井 治

斎藤由太郎

斎藤 愛蔵

斎藤惣太郎

斎藤 肇

斎藤 徳

(三段)

佐々木弥一

斎藤 一栄

斎藤庄太郎

斎藤 利雄

斎藤外棄夫

斎藤 光栄

斎藤 金治

斎藤 武

斎藤 治

斎藤 秀治

斎藤 久治

斎藤 利雄

斎藤六太郎

斎藤 栄

斎藤 峨

斎藤 敏夫

斎藤 悟

斎藤 安治

水沢幸太郎 酒井 職
宮山 二見 斎藤作男
花山新太郎 伊藤春治

伊藤 梅吉

J-2 大興記念碑



大興記念碑

開墾

(裏)

大正四年十一月十
四日着手大正十年
八月三十日竣功大
正九年二月二十四日
農商務大臣ヨリ
開墾助成金六陌
四縣知事ヨリ耕
地整理認可

発起者

酒井 慎一

〃

酒井 治作

〃

斎藤 小兵衛

〃

斎藤 藤吉

同意者

斎藤 黙鋭

酒井 利雄

外十八名

請負者

酒井利右門

大正九年四月二十

一日建之

大野石工

松田 元吉

大正四年…一九一五年。

【解説】

碑には大正四年から六年もの歳月をかけて行われた開墾事業の経緯が記され、最後には関係者七人と石工の名前が記されている。

J-3 記念碑



記念碑

嶗崎土地改良竣工 昭和48年3月吉日

(裏)

償還完了昭和63年10月吉日
平成元年10月吉日之建立
昭和48年…一九七三年。

J-4 記念



記念

(裏)

昭和五十一年完成

(側面)

北山大袋土地改良共同施行

昭和五十一年…一九七六年。

J-5 北山惣社趾



北山惣社趾

(裏面)

天文八年(一五三九)の平泉寺賢聖院領、所々之目録之事の古文書に銘記する北山惣社の跡地である

平成五年春

北山区

J-6 旧遅羽村役場跡



旧遅羽村役場跡

昭和二十九年九月一日

勝山市制施行

(裏)

平成十年八月十五日

建立 勝山市議会議員 野尻佐太郎

昭和二十九年…一九五四年。

J-17 遅羽保育所跡地



(裏)
遅羽保育所跡地

平成拾六年参月拾六日 閉園

J-18 (蓬生白山神社灯籠)



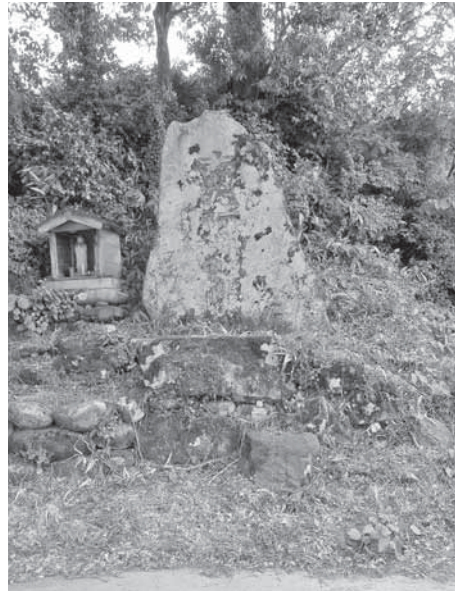
奉納
文政十三庚寅八月吉日
福井施主齊藤六右工門
文政十三庚寅…一八三〇年。

J-19 (線刻大日如来像)



大日如来像
元禄己巳年八月 日
元禄己巳年…一六八九年。

J-10 南无阿弥陀佛



嘉永五壬子三月

南无阿弥陀佛

天下泰平

願主 専勝寺 釈信定拝

嘉永五壬子…一八五二年。

J-11 南无阿弥陀佛



南无阿弥陀仏佛

明治二十七年十二月 日

明治二十七年…一八九四年。

J-12 (不動尊徳之碑)



不動尊徳

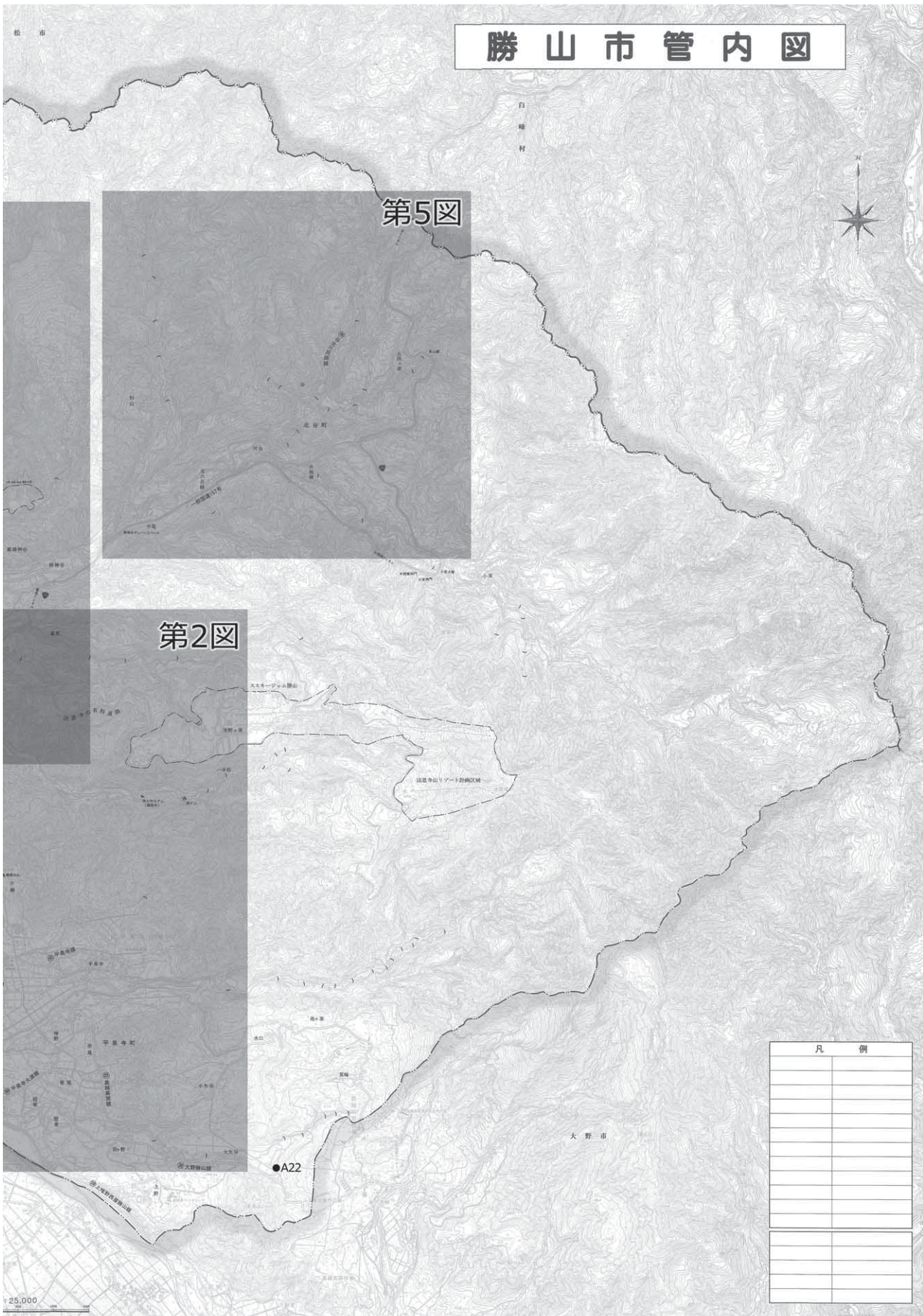
(裏)

明治三十七年八月廿一日被
為罹火災之難不堪恐
懼今菟塊灰燼奉築焉

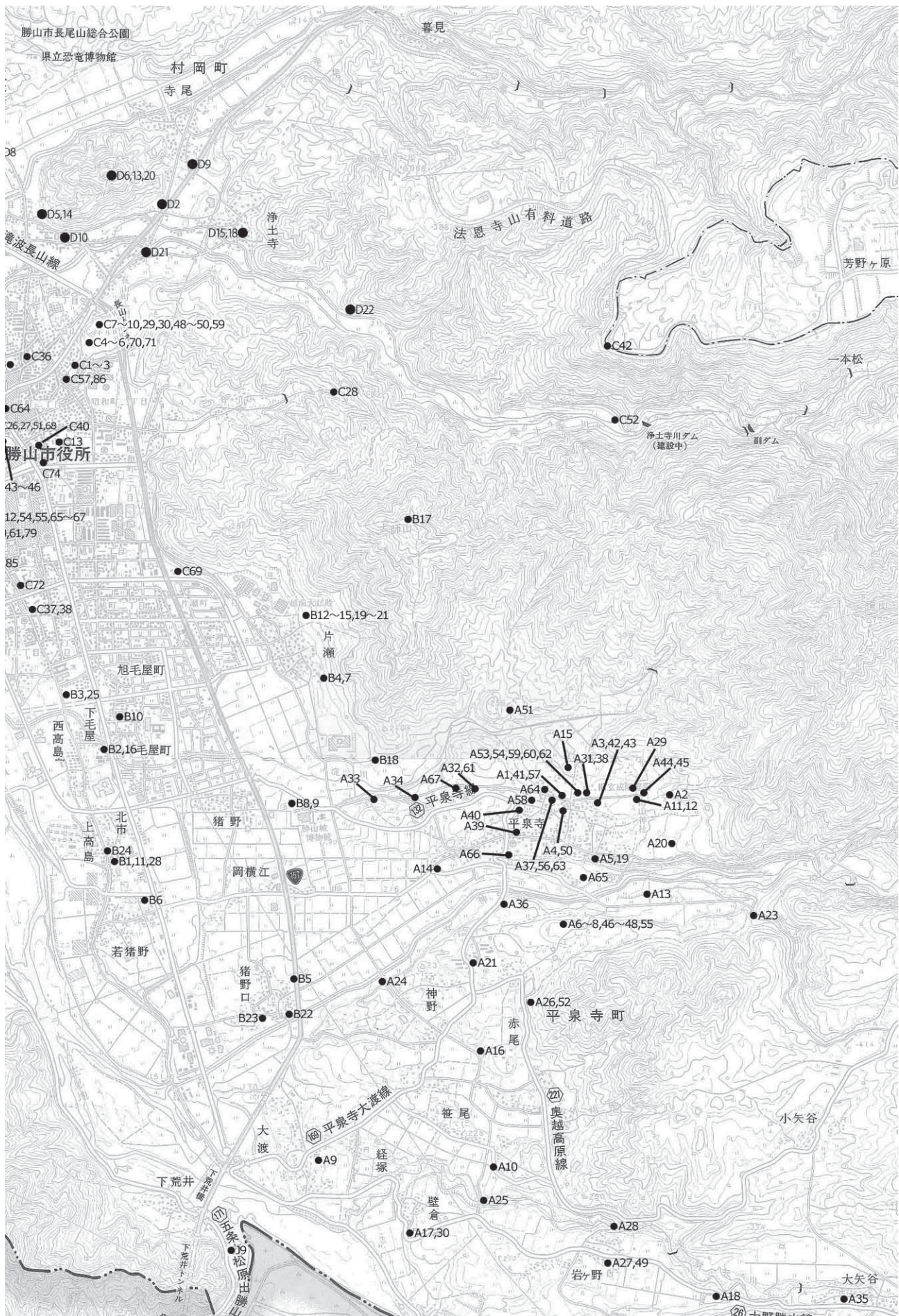
明治三十七年…一九〇四年。恐懼…きょうく。恐
れかしこまること。菟…あつめ。集め。灰燼…か
いじん。灰とちり。

【解説】

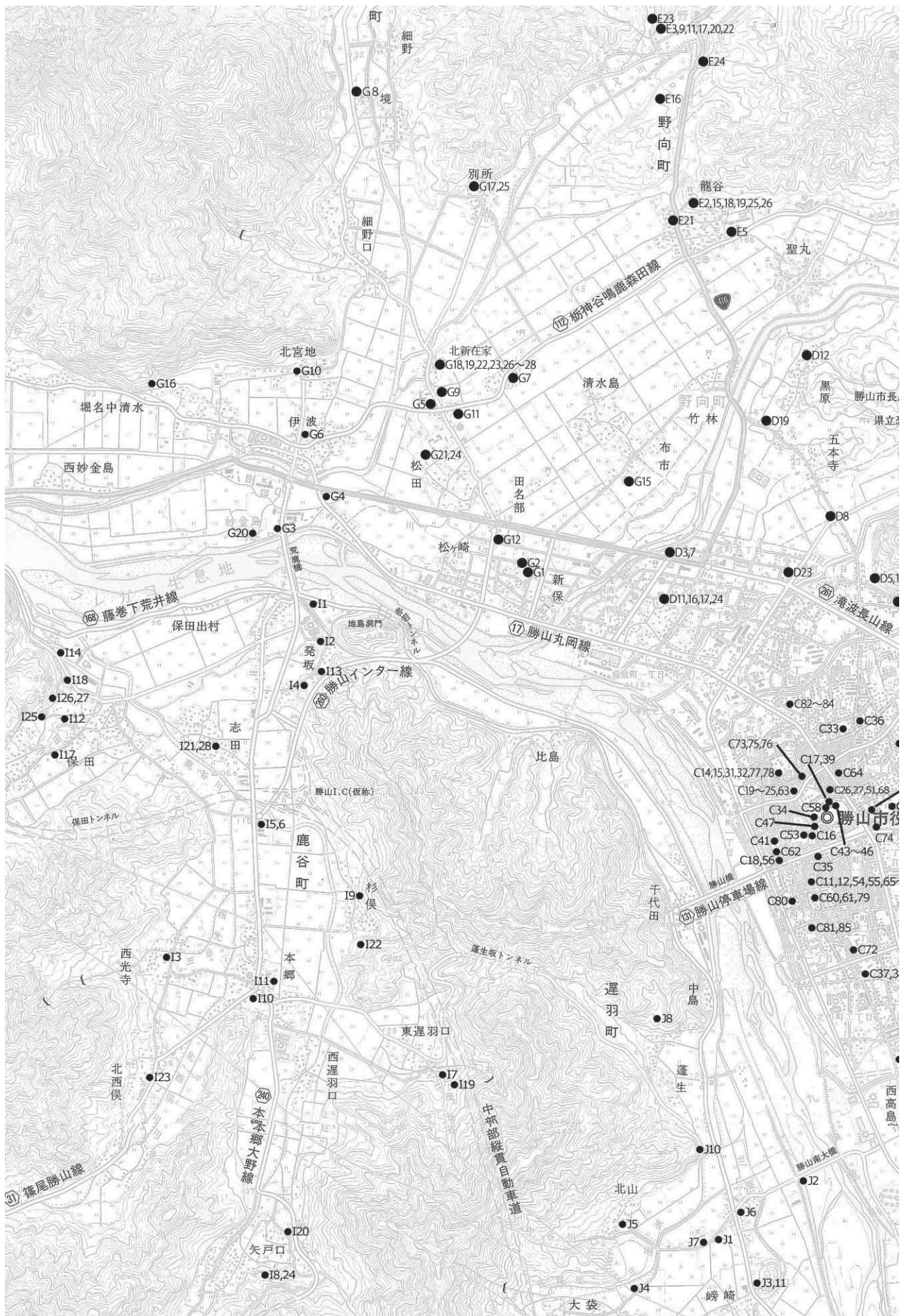
表字が判読できないが裏面の説明文から明治三
十七年に村が大火に見舞われ、塵灰を集めて碑を
建て後世への戒めとする内容が記されている。



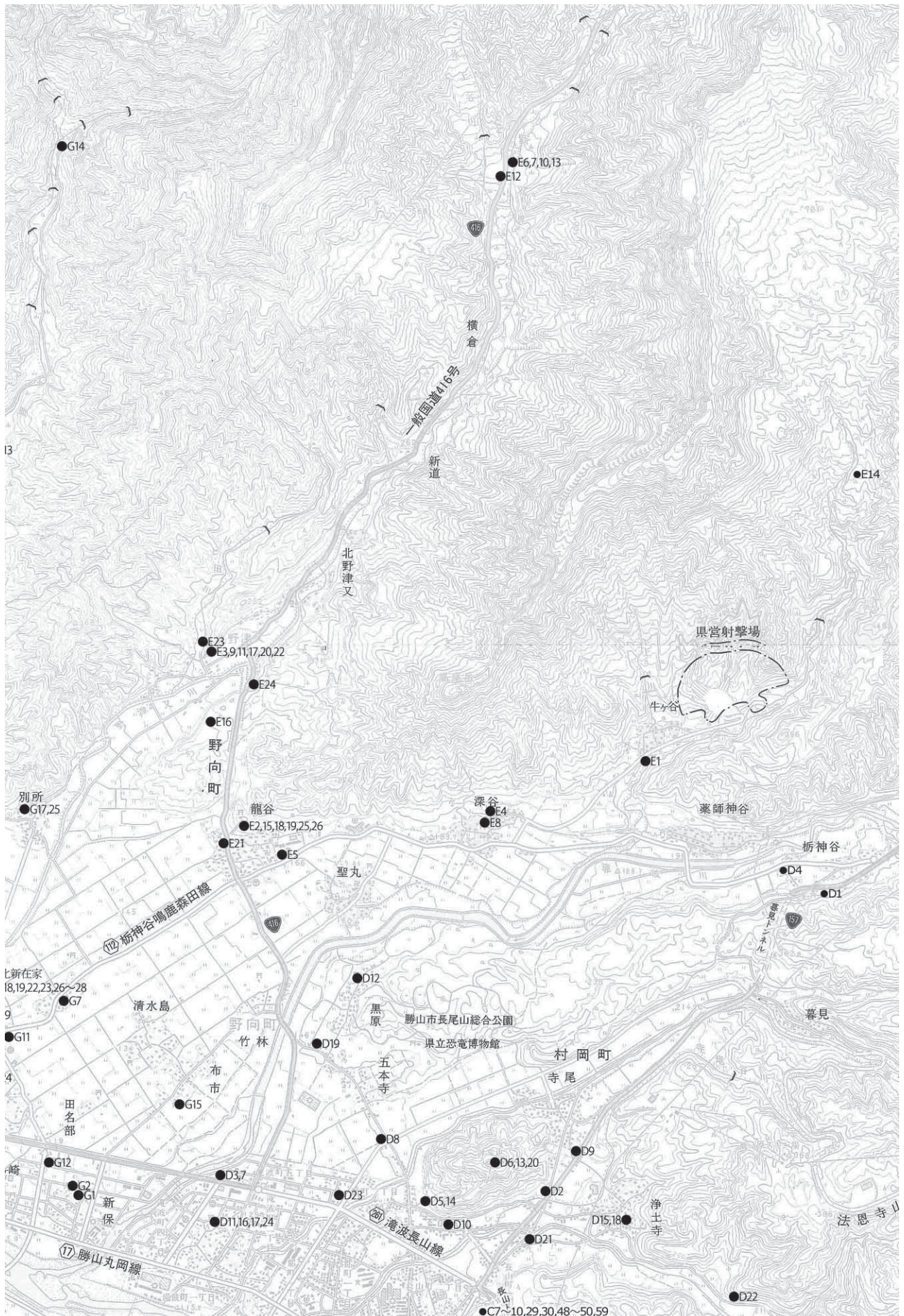
第1図 勝山市全体図



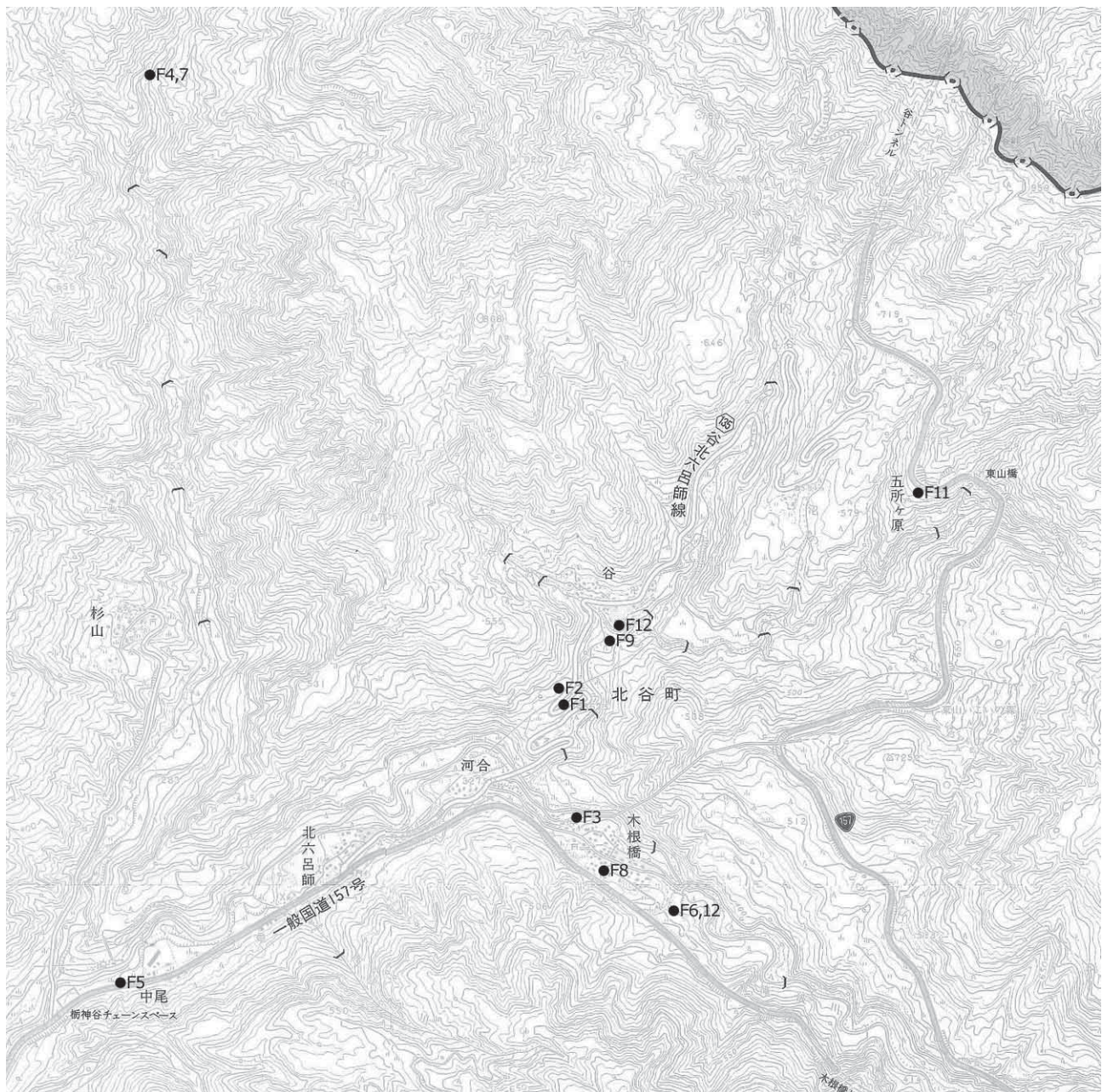
第2図 位置図1 (平泉寺・猪野瀬・勝山・村岡地区)



第3図 位置図2（勝山・村岡・野向・荒土・鹿谷・遅羽地区）



第4図 位置図3（勝山・村岡・野向・荒土地区）



第5図 位置図4（北谷地区）



第6図 位置図5（北郷地区）

3章 文化財・エコ町関係碑及び学校関係碑

この章では文化財関係碑、平泉寺町まちづくり推進協議会及び勝山エコ推進協議会による碑、エコ関係の碑、さらには学校関係の碑をまとめて紹介する。ただし、はじめに述べたように簡単な解説と学校関係碑の一覧を紹介するにとどめざるを得なかった。

なお文化財・エコ町関係碑については、平泉寺地区を除き、その他の地区は地区別石碑一覧に名称のみ掲載してある。平泉寺地区については数が多く今回は紹介できなかったが、歴史的にも重要な地名等が碑文に記されており、次の機会に全文を掲載する形で紹介したい。

1節 文化財・エコ町関係碑

文化財碑 文化財にかかわる石碑は市内全体で11基見られる。勝山市の文化財に指定されたもので、屋外に存在するものはその多くが木の板に説明が施されている。九頭竜川に架かる4つの「旧渡場」跡のみが教育委員会の名前で、自然石に「昭和四十一年六月二十六日指定」と記して建てられている。

そのほか地区独自に建てられたものが5基見られるが、名称と指定年月日を記した簡単なものである。戦前に県指定史跡となった「畑ヶ塚」の碑は個人の寄付によるものである。

平泉寺町まちづくり推進協議会設置の碑 国の史跡になっている平泉寺地区には、「平泉寺町まちづくり推進協議会」による石碑が建てられている。そこには地区内で言われのある地名や建物跡などについての説明が施されている。碑は平成十五年（二〇〇三）から同20年までに順次建てられ、現在までに確認できたのは56基である。

勝山エコ推進協議会設置の碑 勝山エコ推進協議会により旧勝山町内に設置された碑である。「わがまちげんき発掘事業勝山エコ推進協議会」の名で、

平成に入って計9基が建てられた。藩政時代以来の地名や橋の由来について記したものが大半を占める。

これとは別に、家中から町屋に下る坂道について説明した石碑が5基建てられている。これらは「勝山ライオンズクラブ」の手になるもので、いずれも坂の脇に建てられ、簡単な解説が施されているが建設年は記さない。

エコミュージアム関係の碑 勝山市は町全体を屋根のない博物館と考え、各地域に残る史跡、建造物、産業遺跡などを将来にわたり保存すべき「遺産」ととらえ、これを活用する「エコミュージアム構想」計画を策定した。各地域ではこの事業の一環として地区に残る史跡を掘り起し、その説明・案内を記した石碑を建てた。ここで取りあげたのは平成十七年から同二十一年までに建設された、「勝山エコミュージアムふるさと元気博物館」の銘のある37基の碑である。

文化財碑を除き以上の3団体により設置された碑はエコ町関係碑として分類した。

2節 学校関係碑

市内の高校2校（廃校となった南高校も含む）、中学校3校、小学校8校の計13校の石碑を調査した結果をこの節で紹介する。ここで扱ったのは原則として学校にかかわる碑で、それぞれの学校の敷地内にあるものに限っている。廃校を記念して郊外に建てられているものについては、その他の石碑の地区別のところで扱っている。

平泉寺小学校と遅羽小学校については碑が見当たらなかった。猪野瀬地区については既に昭和6年（一九三一）に勝山町に合併しているため例はない。校舎の中庭までは調べなかったためもう少し数は増えるかも知れないが、現

在のところ確認できた碑の数は全部で87基である。

学校にかかわる碑であるため当然のことながら、生徒の卒業に際して建てられた卒業記念碑が多い。どの学校にあっても卒業生は卒業に際しては記念として寄贈品を送る。紅白幕あるいはピアノや机・椅子一式など校舎内で利用されるものは別にして、ここで対象としたのは校舎外に置かれた寄贈（品）等にかかわるものである。

校歌碑や校訓碑が主要なものであるが、それ以外にも校門・国旗掲揚台、時計など、また植樹に際して建てられた記念碑なども対象とした。校門や国旗掲揚台などは本来ならば石碑の分類には入らないものである。しかしそこには卒業生一同の名称も刻まれており、学校を記念するものとして例外的に入れた。例外扱いとしたものの中には、その材質や作品の性格上、石に刻むことが出来ず、埋め込プレートになっているものもかなり見られる。こうした点も考慮に入れてかなり対象を広げた形で学校関係碑として扱った。

廃校となった勝山中学校や戦前の学校制度による学校碑が一部残っていた。具体的に示すと成器西小学校の14基中に勝山中学校関係6基、南部中学校の11基中に成器尋常小学校時代のもの1基、野向小学校の5基中に野向中学校関係1基、北部中学校の10基中に北郷小学校関係1基がそれぞれ含まれていた。これらについては立地場所を優先し、それぞれ該当する学校の中に入れた（表15参照）。表は先ず地区区分に従って分類した上でそれぞれの区分の中で校種別に分けてある。

碑は卒業生がその卒業年次に記念として建てたものがほとんどである。例は少ないが旧卒業生が贈呈の形で建てたもの、あるいはPTAの寄贈になるものもある。そこには卒業生一同あるいはPTAなどと刻まれている。また開校や閉校記念にあるいは校舎の新築、学校表彰にからんで碑を建てるケースも見られ、そのような碑には個人や団体の名が刻まれる例も見られる。

学校碑についても今回はその所在と名称のみの紹介にとどめざるを得なかった。とはいえ向後の学校統廃合で損なわれる危険性が極めて高い。そのためにも2章で取りあげた人物碑や一般碑と同様に、写真と碑文をつけた形

で後世に残すべきである。勝山市の歴史資料として、文化財・エコ町関係碑も含め、『人物編』の附録の形でよいので収録することが望ましい。

表15 学校関係碑一覧

記号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日
f	2	(記念植樹)	旧北谷小学校	昭和60.6.吉日
f	3	(開校七十周年記念)	旧北谷小学校	昭和41.11
g	1	記念樹	荒土小学校	(昭和61)
g	2	悠々と遊々と	荒土小学校	平成15.3
g	3	(創立百周年記念樹)	荒土小学校	平成21.5.吉日
g	4	(組合設立記念碑)	荒土小学校	昭和62.3
g	5	希望	荒土小学校	昭和60.3.吉日
g	6	真理	荒土小学校	昭和60.3.吉日
g	7	(校歌碑)	荒土小学校	昭和60
g	8	校舎改築記念	荒土小学校	昭和60.3.吉日
g	9	絆 卒業記念の庭	北部中学校	(昭和59)
g	10	歳月	北部中学校	昭和58.3.吉日
g	11	永久の灯	北部中学校	(昭和63)
g	12	卒業生記念植樹	北部中学校	(昭和34)
g	13	はるかなる道をゆくわれら強し	北部中学校	無
g	14	創立二十周年記念樹	北部中学校	昭和54.10.1
g	15	卒業記念植樹	北部中学校	平成1.3
g	16	第一回卒業記念植樹	北部中学校	昭和33.3
g	17	(校門寄贈)	北部中学校	昭和61.10
g	18	敬愛	北部中学校	平成3
g	19	飛翔	北部中学校	平成2
h	1	飛躍	北郷小学校	昭和61.3
h	2	(校門寄贈)	北郷小学校	昭和41.4
i	1	(校門寄贈)	鹿谷小学校	昭和56.6
i	2	(国旗掲揚台寄贈)	鹿谷小学校	昭和47.8

記号	番号	名 称	学 校 名	設置年月日
c	1	(十三回卒業記念)	成器南小学校	無
c	2	校歌之碑	成器南小学校	昭和38.3.23
c	3	(24回卒業記念)	成器南小学校	(昭和48)
c	4	(優秀校記念)	成器南小学校	昭和48.11
c	5	(26回卒業記念)	成器南小学校	昭和50.3
c	6	希望	成器南小学校	(昭和57)
c	7	琢玉成器	成器南小学校	昭和60.3
c	8	希望の道	成器南小学校	平成6.3
c	9	(築庭造成協力者碑)	成器南小学校	無
c	10	(前庭造成寄贈碑)	成器南小学校	無
c	11	(校歌碑)	成器西小学校	昭和52.3
c	12	(勝山中学校歌碑)	成器西小学校	昭和49.3.20
c	13	勝山中学校記念碑	成器西小学校	昭和49.3
c	14	希望	成器西小学校	(昭和33)
c	15	(希望の時計塔)	成器西小学校	昭和37.3.19
c	16	ひたむき 直・向・樹	成器西小学校	平成17.3
c	17	紀元二千六百年記念樹	成器西小学校	(昭和15)
c	18	(前庭寄贈記念)	成器西小学校	昭和32.3
c	19	飛翔	成器西小学校	平成元年
c	20	(三十八回卒業記念)	成器西小学校	昭和60.3
c	21	(勝山中二十一回卒業記念)	成器西小学校	昭和43.3.19
c	22	(45回卒業記念)	成器西小学校	平成4.3.19
c	23	童心	成器西小学校	(昭和40)
c	24	(二宮尊徳像寄贈碑)	成器西小学校	昭和6.5
c	25	十周年記念アカシヤ公園	南部中学校	(昭和59)
c	26	十周年記念	南部中学校	(昭和59)
c	27	とぼし灯	南部中学校	平成7.3.吉日
c	28	啓発録	南部中学校	昭和55.3.18
c	29	咲	南部中学校	(平成14)
c	30	讃歌	南部中学校	昭和59.3
c	31	日時計	南部中学校	(昭和7)
c	32	(校歌碑)	南部中学校	昭和50.3
c	33	(南部中新築記念)	南部中学校	昭和50.6
c	34	理想は高く心は清	南部中学校	昭和61.10
c	35	(前庭の舗装記念碑)	南部中学校	平成17.8.吉日
c	36	(校歌碑)	中部中学校	昭和43.3
c	37	啓発録	中部中学校	(平成3)
c	38	歳月人を待たず	中部中学校	昭和51.3.12
c	39	いま自立の翼を広げて	中部中学校	(平成9)
c	40	走れ青春の広野を	中部中学校	昭和60.10
c	41	卒業記念樹	中部中学校	昭和61.3
c	42	ここに新しい伝統を	中部中学校	昭和50.10
c	43	探究	中部中学校	昭和54.12
c	44	卒業記念樹	中部中学校	昭和53.3
c	45	卒業記念樹	中部中学校	昭和54.3
c	46	精魂	中部中学校	昭和54.3
c	47	日時け	中部中学校	無
c	48	ともしび	勝山高等学校	平成14.3
c	49	まこと 信・誠・真	勝山高等学校	平成8.3
c	50	働学一如	勝山南高校	平成4.3
c	51	(校歌碑)	勝山南高校	昭和49.3
c	52	創立50周年記念碑	勝山南高校	平成4.11.1
c	53	友愛自立	勝山南高校	平成7.3
d	1	さあ翔こうぼくらの21世紀	村岡小学校	平成(6)
d	2	(校歌碑)	村岡小学校	昭和54.3
d	3	(卒業記念時計)	村岡小学校	昭和60.3
e	1	記念樹	野向小学校	昭和24.3
e	2	(校歌碑)	野向小学校	平成2.3.吉日
e	3	愛敬	野向小学校	昭和59.3.吉日
e	4	ふれあい	野向小学校	平成9.10.18
e	5	文部大臣賞受賞記念	野向小学校	平成4.10.10
f	1	(校歌碑)	旧北谷小学校	平成10.8.吉日

勝山市の石碑

平成二十六年三月三十一日 発行

編集・発行 勝山市教育委員会史蹟整備課

福井県勝山市元町一―一―一
TEL (〇七七九) 八八―八二―三

印刷 朝日印刷株式会社
福井県勝山市昭和町三丁目二―六三―一
TEL (〇七七九) 八七―〇〇―二七

表紙写真：林李梁遺徳碑
裏表紙写真：「平せんじ道」道標



勝山市の石碑

二〇一四

勝山市教育委員会